vol.113
2023年11月

ばら

福山市民病院広報誌

特集

第61回
自治体病院学会in北海道に
参加しました！

2023年度 消防競技大会に参加しました!

福山市民病院理念

質の高い安全な医療を通じて「安心と生きる力とやすらぎ」を
地域に提供するとともにこころ豊かな医療人を育成する

地域医療支援病院
地域がん診療連携拠点病院
救命救急センター
肝疾患診療連携拠点病院
災害拠点病院
臨床研修病院
緩和ケア病棟承認施設
第二種感染症指定医療機関
DPC特定病院群
がんゲノム医療連携病院
小児救急医療拠点病院
紹介受診重点医療機関

巻頭言

特定認定看護師への期待

看護部長
内田 朋子

特定行為とは、患者に最も近い医療職である看護師が、患者の状態をアセスメントし、臨床推論を駆使して必要なケアを手順書に基づいて実施する行為です。それがタイムリーなケアの実施となり、患者の重症化予防や、苦痛の緩和、早期回復につながります。当院では、2022年9月から特定行為研修を修了した認定看護師が特定行為を実践しています。ここでは、その活動内容とこれからにむけての期待について述べます。

【特定認定看護師とは ―当院での活動】

2015年、日本看護協会では実践的な理解力、思考力、高度かつ専門的な知識および技能を必要とする診療の補助行為21区分38行為の特定行為研修制度がスタートしました。急性期病院において、安全で安心な医療の提供のために、フィジカルアセスメントや臨床推論の能力向上は必須であると考えます。実践に基軸を置く認定看護師が特定行為研修を受講することで、認定看護師の分野に特化した知識・技術に加え、臨床推論力や病態判断力がより強化されて実践力が高まります。実践力の高い認定看護師が特定行為研修を修了し、臨床現場で活動することは、病院の診療・ケアの質向上につながると考え、当院では2021年に有資格者である2名の認定看護師が特定行為研修を受講し修了しました。

クリティカルケア認定看護師と皮膚・排泄ケア認定看護師の2人が特定行為研修を修了し、それぞれの分野で特定行為の実践を行っています。

クリティカルケア特定認定看護師の具体的な活躍の場は、集中治療室入室中の患者管理、院内救急対応システム(Rapid Response System：RRS)でのチーム活動、看護教育におけるフィジカルアセスメント研修の講師や現場スタッフ指導など、多岐にわたり実力を発揮しています。PICC(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル)挿入などの実践行為だけでなく、特定認定看護師としてケアとキュアの両側面の実践において、患者と医療者、医師と看護職をつなぐ役割を担っています。実際、持続点滴中でのミネラル補正が必要な患者について、受持ち看護師に医師の視点でのアセスメントや指示の意図、観察などを直接伝えることができ、患者の状態と照らし合わせることで、より看護が深まっています。さらに、特定行為後も実践者がその場にいることで、継続看護につながり相談しやすく受けやすい等の声も聞かれています。

もう1人、皮膚・排泄ケア特定認定看護師は周術期病棟を活動の場

としています。術後の腹腔ドレーン抜去や創傷に対する陰圧閉鎖療法などの実践を通して、術後せん妄患者のドレーン留置が、医師との相談の結果早期抜去の方針となり、特定認定看護師によるタイムリーな抜去により医療提供の時間短縮につながった事例などがあります。さらに、夜間・休日で陰圧閉鎖療法の治療継続が困難とされる場合でも、特定認定看護師がいることで医師が来院することなく治療継続できたことが挙げられます。他にも循環器内科医師と連携し、PAD（末梢動脈疾患）外来にてフットケアの実践や、泌尿器科医師とともに膀胱瘻のカテーテル交換も行っています。今後はより患者スケジュールに合わせての実践や病棟スタッフへのOJT（On the Job Training）につながることを期待しています。

【2023年度　2人の特定認定看護師の養成】

今年度は、糖尿病看護認定看護師が特定行為研修を受講しています。当院には、常勤の糖尿病専門医がいません。現在、高齢者の5人に1人が糖尿病に罹患していると言われており、あらゆる場面において糖尿病に関する相談に対応できる糖尿病看護認定看護師は必要な存在です。特定行為研修修了後は、臨床推論やフィジカルアセスメント、インスリン投与量の調整に必要な知識と技術を駆使し、医師以上の情報をもって必要なケアについて相談できるような役割を期待しています。さらに、その観察・情報収集・アセスメントは入院でも、外来でも医師の診療時間の短縮、タイムリーなケアの提供につながるものと考えています。

もう1人、化学療法を多く実践している部署から、がん薬物療法看護認定看護師をめざして特定行為研修も含めて受講している者がいます。研修修了後には、2人の先輩がん化学療法看護認定看護師とともに、がん薬物療法を受ける患者に予測されるリクスや変化を瞬時に捉え、臨床推論を用いて栄養、水分管理の思考プロセスを看護実践や看護記録などで看護職に伝えて、臨床の現場でロールモデルとして活動してくれることを期待しています。

【おわりに】

今後、さらに高度化、複雑化が進む医療や介護の現場では、あらゆる場面で高い水準の看護サービスを提供することが求められます。専門性が高い看護とは、専門的なことをよく知っているだけではなく、専門分野からその人の全体像を捉え、臨床推論力や病態判断力を駆使して適時、適切に行動に移せることだと思っています。そのような看護師が組織に1人、2人いる、という特別な存在ではなく、すべての人々に水準の高い看護が提供できるように、できるだけ多くの看護師がそのスキルを身に付け、看護の底上げにつながるよう取り組んでまいります。

「ばら」113号もくじ

2 巻頭言

特集

4 第61回自治体学会 in北海道に参加しました！

8 新任医師紹介

9 第2回 先天性心疾患CHD勉強会 開催報告

10 臨床検査技師が「胎児超音波スクリーニング検査」を施行します！

12 World Physiotherapy Congress 2023 in Dubai 参加報告

14 第4回 国際腹腔鏡肝臓学会 参加報告

17 ふれあい看護体験2023&インターンシップを開催しました！

18 2023年度 第2～5回 オープンカンファレンス 2023年度 第2回 がん診療連携合同カンファレンス

20 ちょこっと病棟紹介

連載

23 第52回 歯っと思ったこと

24 第23回 認知症ケアチームの気になる話

25 第3回 周産期医療について

26 第8回 小児科ミニコラム

29 ニュース

30 ひまわり

32 QRコード使い方紹介 管理者室より 外来診療担当表

［表紙写真について］
2023年度消防競技大会の様子です。

特集

第61回 自治体病院学会in北海道に参加しました！

リハビリテーション分科会

リハビリテーション科　坂本 暁良

8月31日～9月1日の期間で開催された第61回全国自治体病院学会in北海道にてリハビリテーション科としてポスター発表をさせていただきました。今回の学会テーマが、未来に輝け 自治体病院～Mission！持続可能な地域医療を構築せよ～というものでした。私の発表した内容は、“患者さん個別に自主練習メニューの動画を作成し良好な関節の動きが確保できた可能性がある”というもので、動画を視聴して学ぶことが増加している昨今、動画のバリエーションを増やすことで持続的にどこでもリハビリテーションができる地域医療を構築できればと考えています。

北海道では人口の密集地域と過疎地域とでリハビリテーションが継続できているかの格差が激しいようで、退院後、動画やZoomなどの画面越しでリハビリテーションができる取組みを積極的にされているようです。動画以外でも色々な取組み方があり、とても刺激になりました。現在、井笠・備後ハンドセラピィ研究会としてセラピスト向けではありますがYouTubeに動画投稿をしています。今後当方でも患者さん向けにも作製していければと考えています。

▲井笠・備後ハンドセラピィ研究会 動画

薬剤分科会

薬剤科　前原 健司

薬剤分科会・薬剤管理指導／病棟薬剤業務セッションにおいて「救命救急センターICU及びHCUにおける病棟薬剤業務の現状と課題」というタイトルでポスター発表をさせていただきました。救急医療における薬剤師の現状は、2010年に救急認定薬剤師、2022年に救急専門薬剤師制度が設立され、2020年には集中治療室における薬剤師の活動指針が発表されるなど、日々アップデートされてきています。当院においては、2020年7月から救命センターICU（集中治療室）とHCU（高度治療室）に薬剤師がそれぞれ1名配置となり、入室される患者さんの薬物治療に関わらせていただいています。今回はその薬剤師の関わりの状況を調査し、結果を発表させていただきました。内容に少し触れると、薬物治療へ関わる件数は増加しており、医師からの問い合わせ件数も増加しているという結果でした。一定の成果は確認できましたが、まだまだ発展途上といった現状です。今後も救急医療に薬剤師として精進し、患者さんの役に立てればと考えておりますのでよろしくお願いします。

放射線分科会

放射線科　下江 亘

今回の学会では「自分の伝えたいことを簡潔に伝える」「他施設での動向を学ぶ」「ひたすら楽しむ」をテーマに掲げ学会に臨みました。

私は「血管撮影におけるシールドカーテン使用方法による散乱線量の検討」という演題名でポスター発表を行いました。血管撮影とは放射線を発生する装置で血管を描出することで、例えば心筋梗塞の治療で行われるバルーンやステントを用いた血管狭窄に対するカテーテル治療で使用されます。その際に、患者さんだけではなく術者にも放射線が届いてしまいます。そこで、色々な工夫をしながら放射線防護具を使用または作成することで効果的に被ばくを低減させることが出来るという内容です。他の病院の同職種の方と話しをする機会もあり、有意義な時間となりました。

さておき、なんといっても自治体病学会の醍醐味は多職種が参加する学会というところです。当院からもさまざまな職種の方が参加し、北海道の地で新たな絆が生まれました。ご存じの方も多いと思いますが、北海道のシメはパフェ。ということで、男三人で高額なパフェを堪能しました。

今後もよりよい医療を行うため、学会発表等に積極的に参加し知識の更新を行っていきたいと思います。

特集

地域医療・連携・福祉分科会

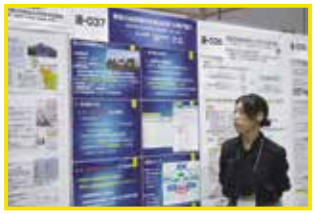
地域医療連携課　齋藤 靖子

自治体病院学会に参加して、「電話訪問が看護職の退院支援に及ぼす意識変化～病棟看護師・助産師の退院支援に対する意識調査より～」と題して発表しました。

意識調査の結果、当院で行っている電話訪問（退院数日後に患者さんへ電話をかけて、在宅での様子を伺う）の経験が、地域包括ケアシステムを推進する中で看護職に求められている「在宅での生活をイメージする力や患者さんを生活している人としてみる視点」を養うことができると示唆され、仕事へのやりがいにも良い影響を与えていることが分かりました。今後も、スタッフが電話訪問の経験値を積み、退院支援に活かせるよう支援していきたいと思います。また、今年度よりプロジェクトが立ち上がったPFM（Patient Flow Management）に関する発表も聞くことができ、とても参考になりました。

学会終了後は、クラーク博士を訪ね、ポーズを撮ってきました。少年よ大志を抱け…もう少年ではないけれど、夢や目標を持ち続けたいと思います。

地域医療連携課　藤本 恭子



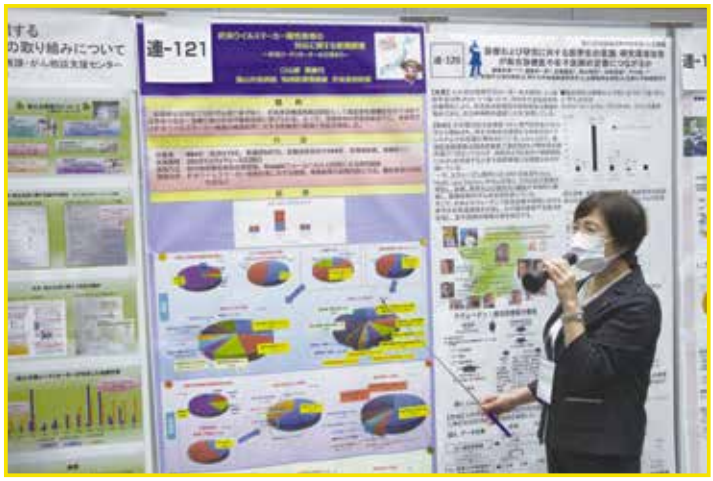
この度、8月31日・9月1日の会期において、札幌で開催された「第61回全国自治体病院学会in北海道」へ参加し、昨年11月から泌尿器科・医事課・地域医療連携課で協働した取組みについて発表しました。

この取組みは地域の泌尿器科専門医のみなさまの了承や各医師会理事会にて承認いただいた事により、地域医療機関への周知等がスムーズにできたと考えています。取組みを始めてから約半年で、受診までの待機日数が約52日短縮したほか、紹介率も19ポイント上昇する等、大きな成果が出ています！

これらの取組みが病院収益に寄与することはもとより、今後も、医師会や地域の先生方との連携および泌尿器科専門医との意見交換や情報共有をしっかりと行い、患者さん・紹介元医師・泌尿器科専門医師・当院のみんながハッピーとなる連携を目指していきたいと考えています。

学会では5分という短い時間での発表から、あせりや緊張との戦いでしたが、何とか思いだけは！伝えることができたと感じています。最後になりますが、学会に快く送り出してくれた職場のみなさま、一緒に取組んでくださった泌尿器科の先生方、本取組みに協力いただいた全ての方に心から感謝申し上げます。

肝疾患相談室　山部 美智代

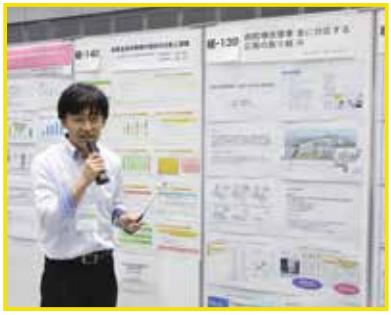


今回私は、『肝炎ウイルスマーカー陽性患者の対応に関する意識調査』～肝疾患コーディネーターの立場から～という題で学会に参加しました。肝炎ウイルスが治療・看護に及ぼす影響の大きさ、ウイルスを保有する人に対する人権問題などを含め、すべての医療者にもっと関心を持ってもらいたいと思い、まず現状から調査したのが今回の発表でした。このような発表の機会を増やすことで、肝炎ウイルスに関する情報発信ができ、肝炎ウイルスを持つ患者さんに必要な医療（看護）介入ができる体制が少しづつ整うのではないかと思い、与えられた機会を大切にしたいと考えています。

特別講演では、前WBC日本代表監督栗山英樹さんが、『信じる力』という題目で講演をされるのを楽しみにしていました。WBCの裏話を聞きながら栗山監督の一人ひとりの対応秘話に心打たれ、人を信じぬくには、その人を想う『愛』と『忍耐力』が必要だと感じさせられた素晴らしい講演でした。

広報室

広報室



第61回全国自治体病院学会に広報室として参加しました。

病院ホームページリニューアル以降のアクセス解析の結果や病院増改築事業に関する広報の取り組み、広報誌からウェブ広報への誘導における試みと今後の展望についてポスター発表を行いました。

現在の広報活動を見つめ直す中で一定の効果が表れたものもあれば、新たな課題を発見することもでき、改めて今後の広報活動の在り方について考えるよい機会となりました。他院の参加者から当院の広報誌「ばら」へ掲載する情報の収集方法等について質問をいただく場面もあり、他院の方と情報交換できる貴重な時間となりました。

本学会に参加し、他院での取組みに触れることで刺激を受けたり、当院の参加者とも交流を深めることができ、とても充実した2日間でした。

欲しい情報をスピード感をもって発信していけるよう、今後の広報活動にもしっかりと活かしていこうと思います。

新任医師紹介！

10月から当院で勤務する新任職員への辞令交付式を行いました。
高倉病院事業管理者より辞令が交付され、訓示が述べられました。
新たに赴任した医師をご紹介します。

医師一覧はこちら▶

内科

杉浦（すぎうら） 弘幸（ひろゆき）

血液内科医として10月より福山市民病院に赴任した杉浦弘幸と申します。患者さんのため、一生懸命頑張りますので、何卒宜しくお願いいたします。

■趣味：特になし　座右の銘：一生懸命

内科

阿部（あべ） 将也（まさや）

10月より内科で勤務をしています、阿部将也と申します。白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液疾患を専門としています。福山の医療に貢献できるように精進してまいりますので、よろしくお願いいします。

■趣味：動画鑑賞
座右の銘：小さなことからコツコツと

内科

島田（しまだ） 佳祐（けいすけ）

消化器内科、専攻医2年目の島田佳祐と申します。当院で初期研修を行い、当院の内科専門医プログラムに所属しております。今年度4月から6月まで川崎医科大学総合医療センター、7月から9月まで井原市民病院で研修を行い、10月から再び当院で働くことになりました。連携先の病院で培った経験を診療に還元できるよう、精一杯励む所存です。よろしくお願いいたします。

■趣味：ラーメン屋巡り、おしゃれな物集め
座右の銘：みんなちがって、みんないい

産婦人科

組橋（くみはし） 佳純（かすみ）

10月より福山市民病院に赴任いたしました、産婦人科専攻医1年目の組橋佳純と申します。香川県出身で地元の香川県立中央病院で初期研修を行い、今年の4月より、岡山大学病院で後期研修を開始しました。まだまだ未熟ではありますが、地域の皆様に貢献できるよう精一杯努めてまいります。よろしくお願いいたします。

■趣味：旅行
座右の銘：人事を尽くして天命を待つ

第2回先天性心疾患CHD勉強会（全4回）開催報告

2023年7月より、小児科循環器担当医および循環器内科医師による先天性心疾患勉強会（全4回）を開催しています。今回は9月27日に行った第2回勉強会（担当：日置（小児科））についてご報告します。（第3回：11月 高橋生（循環器内科）、第4回：河津由紀子（小児科）担当）

小児科　日置 里織

今回は「主に小児期の心臓病 意外と分かりやすい先天性心疾患」と題してお話しました。

先天性心疾患には何種類も病名があり、複数の病名で一つの病態を表していたり、同じ患者さんでも手術によって病態が変わったり、何かと複雑な印象があります。今回の勉強会では、いくつかの特徴に分けて、それぞれの疾患群の病態を確認しました。

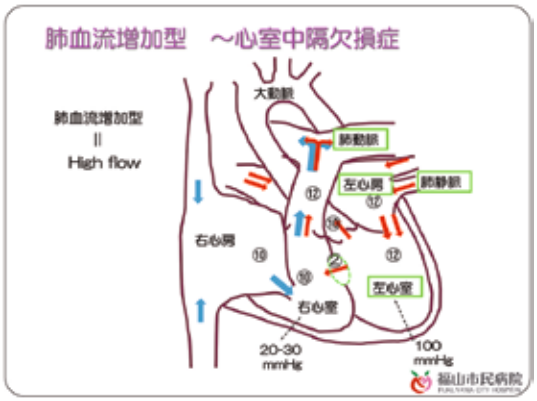
大きく分けると、肺血流増多型・減少型、チアノーゼ型・非チアノーゼ型に分類されます。各々、血行動態の特徴や生じやすい症状があり、注意点が異なってきます。

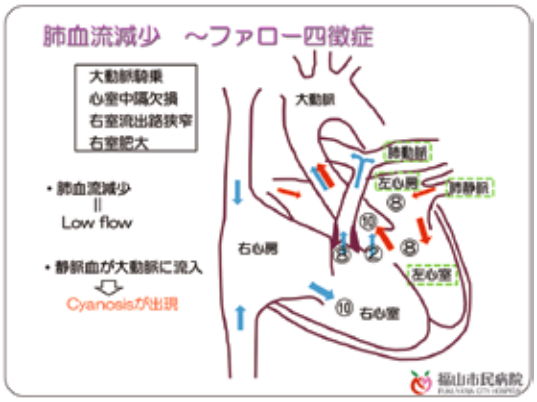
肺血流増多型（心室中隔欠損症など）では、呼吸が速い・汗をかきやすいなどの症状がみられ、体重が増えにくい傾向があります。肺血流減少型（ファロー四徴症など）では、チアノーゼがみられ、大泣きした時や発熱・脱水時などに無酸素発作を生じる危険性があります。

また、先天性心疾患では複数回の手術治療を必要とすることがあります。単心室型の心疾患の場合、段階的にグレン手術、フォンタン手術を行います。

病名に、手術名に・・・と考える事が多いように思えますが、それぞれの病態について、図にして具体的にイメージすることができると分かりやすくなります。勉強会中には、実際の患者さんと同様の病態を例にとって、血行動態の確認も行いました。

当院は小児救急の拠点病院であり、かかりつけではない患者さんも救急搬送等で受診されることがあります。限られた情報から適切な初期対応を行えるよう、引き続き皆さんと知識を深めていけたらと思います。　（文責：日置里織）





次回は11月に循環器内科 高橋生先生がお話します。お楽しみに！！

臨床検査技師が

胎児超音波スクリーニング検査を施行します!!

～産婦人科医から臨床検査技師へ「タスクシフト」しました～

医療技術部 臨床検査科 次長 片山 沙予子

胎児超音波
スクリーニング検査
HPはこちら▶

この度当院では「胎児超音波スクリーニング検査」を産婦人科医から臨床検査技師へ「タスクシフト」しました。まずは、①「胎児超音波スクリーニング検査」、②「タスクシフト」についてご説明いたします。

❶「胎児超音波スクリーニング検査」について

妊婦健診の際に行われる通常の超音波検査と、胎児超音波スクリーニング検査は「何が違うの?」と思われる方がいらっしゃるのではないでしょうか。

妊婦健診の際の通常超音波検査は胎児の成長や妊娠の経過を確認することが目的ですが、胎児超音波スクリーニング検査は胎児の形態変化を伴う病気の有無を確認することを目的とする検査です。近年、超音波検査機器の画像技術の進歩に伴い、出生後ただちに治療が必要な胎児の形態変化を伴う病気を指摘することが可能となりました。

❷「タスクシフト」について

タスクシフトとは、業務を他の職種へ移す取組みをいいます。医師の長時間労働を改善すること及び医療品質の向上や効率的な医療の実現を目的に厚生労働省が推進しています。

それでは、当院における胎児超音波スクリーニング検査業務のタスクシフトについてです。

当院では数年後に「周産期母子医療センター」設置が予定され、分娩数の増加が見込まれています。そのためさらに、安心してお産が出来る体制を整える必要があり、「胎児超音波スクリーニング検査」を行い、出生前に胎児の疾患を見つけ出し、最適な分娩施設を選択できたり、出生後の適切な治療を行う準備ができる体制づくりを計画しました。

その中で、多忙な産婦人科医にこれ以上の業務負荷を増大させることは現実的に難しいことから、超音波検査技量を持った臨床検査技師に胎児超音波スクリーニング検査のタスクシフトを行いました。

私たち臨床検査技師にとって「胎児超音波スクリーニング検査」は経験のない領域であり、検査技術の習得方法や増加した業務量を実際こなしていくことができるのかなどの懸念もありましたが他施設の教育支援や院内他職種の協力支援のもと2022年6月から産婦人科医と臨床検査技師でタスクシェア(共同化)して胎児超音波スクリーニング検査の運用を開始し、2023年8月にタスクシフトを完成させることができました。

胎児超音波スクリーニング検査を臨床検査技師の役割としてタスクシフトした私たちですが、専門性を活かしてチーム医療の水準をあげるためには、何をするべきかを考え日々の業務に励んでおります。

胎児超音波スクリーニング検査は私たち5人が担当しています。

担当技師からのメッセージ

チ チームで協力し、「安心してお産が出来る環境作り」に貢献できるよう努めてまいります。

ー 技術と知識を積み重ねながら検査をさせていただきます。

ム 結ばれた命を目の前に、丁寧な検査に努めています。

医 医療安全を保ちながら胎児超音波スクリーニング検査を運用していけるよう努めていきます。

療 「療(い)やす」につながるスクリーニング検査ができるように努めます。

また、一人でも多くの妊婦さんに「胎児超音波スクリーニング検査を受けて良かった」と思っていただけるよう、今後の業務改善につなげるために実際に検査を受けた妊婦さんに「検査満足度調査」のアンケートを行っております。

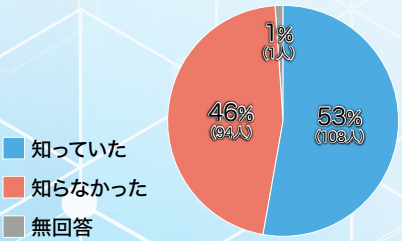
現在までのアンケート調査結果では88％の妊婦さんに「検査を受けて良かった」と感じていただいております。

今後も専門性を活かし「安心してお産が出来る環境作り」に貢献してまいりますので、よろしくお願いいたします。

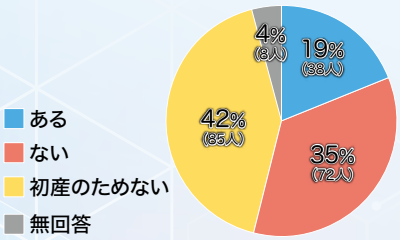
産婦人科医、小児科医、助産師、
産婦人科外来ドクターアシスタント、臨床検査技師　合同写真

検査満足度調査結果 2022年6月～2023年9月（アンケート回答者：203名）

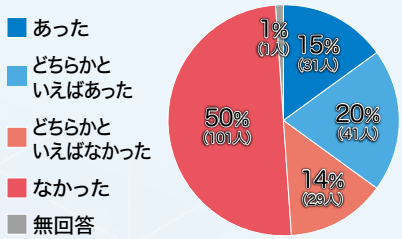
1 「胎児スクリーニング検査」について知っていましたか



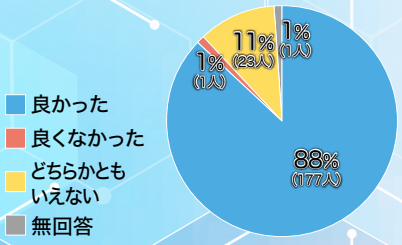
2 「胎児スクリーニング検査」を受けたことがありますか



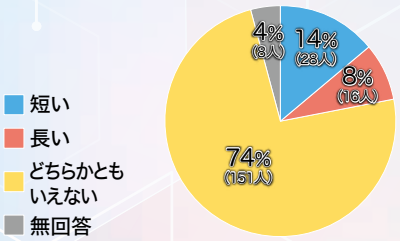
3 検査を受ける前に不安はありましたか



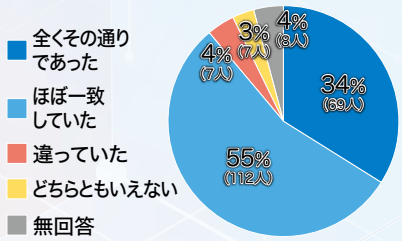
4 「胎児スクリーニング検査」を受けてどのように感じられましたか



5 検査にかかった時間はどうでしたか



6 検査内容は想像していたものと一致していましたか



World Physiotherapy Congress 2023 in Dubai 参加報告

リハビリテーション科 理学療法士 俵 紘志

私が参加したWorld Physiotherapy congressは127の国と地域の理学療法士協会が加盟する世界理学療法連盟が主催する学術集会で、この度、6月2日～4日の3日間、アラブ首長国連邦のドバイで開催されました。

2019年に参加した同学会では、ロボットリハビリに関するポスター発表のみでしたが、今回は、遠隔リハビリに関するポスター発表と、解決すべき課題や自分のキャリアなど自由なテーマでカジュアルに話をするINDABAセッション、「DIGITAL PRACTICE」をテーマにしたディスカッションで発表の機会を頂きました。

学会前日には、「PHYSICAL ACTIVITY LEADERSHIP」セミナーを受講し、世界各国の理学療法士（PT）とともに、座学とグループワークで「PHYSICAL ACTIVITY＝身体活動」にPTがどのように関わるかについて学びました。心身の健康のために〝身体活動〟、いわゆる〝定期的な運動〟は不可欠であり、それを支援する高度な専門知識を持った専門家として、私たちPTはより広く活躍の場を求めていく必要があるようです。

学会初日は、開会式後にClinical Visit（施設訪問）のツアーに参加し、ドバイの小児専門病院Al Jalila Children's Specialty Hospitalを見学しました。館内の至る所に明記された〝CHILDREN COME FIRST（子どもが最優先）〟の言葉通り、入院する子ども達には、オンラインゲームやソーシャルメディアを通じて外部とかかわりが持てるようインターネット環境が整備されていて、学業支援サービスも充実、そして施設内には巨大なプレイルームもありました。また、小さなリハビリ個室がたくさんあるリハビリフロアでは、家族に見守られながら、楽しそうにリハビリに励む子ども達の姿を見ることができ、改めて、家族も含め、温かく前向きにリハビリに取り組める雰囲気を提供することは大事だなあと感じました。

その後のディスカッションでは、AIやビッグデータ、リハビリロボットの研究をされている他国の博士とともに、一臨床家に過ぎない私も登壇させて頂きました。Covid-19パンデミックを経て、理学療法分野においてもデジタル技術を取り入れたアプローチが進んでいますが、導入にあたり、個人情報の取り扱いや法整備の難しさ、それを使用する医療従事者や患者・家族のリテラシー不足など、普及を阻む問題は多かれ少なかれ、どの国も抱えているようでし

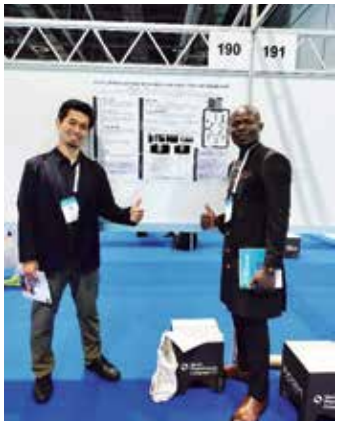
た。しかし、デジタル技術を医療に取り入れていく流れは確実に進んでおり、取り残されないようにしていかねば…と強く感じました。

2日目は、INDABAセッションに登壇し、「遠隔リハビリは人道支援の一助になるか?」、「ロボットフレンドリーな社会のために何ができるか?」の2演題を発表しました。この2つのテーマが、今回のWorld Physiotherapyで私が強く訴えたかったことであり、世界中のPTと意見交換をし、ネットワークを構築したいと考えていました。

一つ目のテーマでは、被弾して脊髄損傷となったアフガニスタンの青年に対して遠隔リハビリを実践する中で、私自身が感じたことを参加者と共有しました。セッション後、アフガニスタン駐在経験のある赤十字国際委員会(ICRC)職員が、すぐさまWHOのリハビリ職員を紹介してくださり、私自身の活動をアピールする場を設けてくださいました。これぞ、オフライン学会の醍醐味です。

二つ目のテーマでは、ロボットリハビリを実施する中で感じる〝先進機器普及を阻むネガティブマインド〟を打ち破ることを目的として、当院リハビリテーション科の有志スタッフで結成したNPOが中心となり開催した0→1(ゼロイチ)イベント「ロボ人ピック」を紹介しました。本イベントは、アシストスーツや電動車いす、デジタルスポーツを融合させた福山発祥の運動会であり、コストの高い先進機器を楽しく体験するという新しいアプローチに対し、参加者から好評を頂きました。また、セッションの中では、他国の面白い取組みも知ることができ、視野がグッと広がりました。

その後のポスターセッションでは、遠隔リハビリについて多くのPTが話に来てくださり、通信料やインターネットライセンス、言語の壁、宗教的問題、医療制度など、国をまたいで遠隔リハビリを提供することの難しさを知る事ができました。



最終日は、個人的に大好物の企業展示を回り、ロボットやVR、モーションキャプチャーなどを使用した最先端のリハビリ機器をじっくり体験させて頂きました。リハビリ機器は目覚ましく進歩していますが、その恩恵を受けるためには、それらを使う人も使われる人も柔軟な思考や、「未来の医療へ繋がっている!」というワクワク感を持ちながら積極的に活用していく必要があるなと感じました。また、今学会が初となる写真展「PHOTOGRAPHY EXHIBITION」のコーナーでは、当院で開催したリハビリロボット体験会の写真が選ばれ、非常に良い記念となりました。

会期中は登壇機会も多く、後日開催されたオンラインイベントや振り返りミーティングにも参加させていただき、さまざまな国のPTとのネットワークができました。今回得た経験をフル活用し、よりよい医療サービスが提供できるように努めてまいります。

最後になりましたが、演題作成にご協力頂いたICRC駐日代表部の皆さま、ICRCリハビリマネージャーNajmuddin氏、当院整形外科山名先生、精神科 平先生、リハビリテーション科スタッフの皆さまへ感謝申し上げます。

第4回
国際腹腔鏡肝臓学会にて
世界最高評価を
受けました！

外科 科長 **門田 一晃**

先日、第4回国際腹腔鏡肝臓学会（ILLS 2023）がイタリアのローマで開催され、当院からは私とリハビリテーション科の平田理学療法士の2名が参加しました。ローマは歴史的にも文化的にも非常に豊かな都市で、学会会場の近くにはコロッセオやバチカン市国があり、その美しさに私たちは終始圧倒されっぱなしでした。

国際腹腔鏡肝臓学会は、ロボットや腹腔鏡を使用した肝切除に関して新しい知識や技術を学び、より高度で安全な手術を患者さんに提供することを目的とした権威ある国際学会の一つで、世界各国から肝臓外科医が参加する非常に大規模なものです。2年毎に開催されており、第1回はパリ、第2回が東京、そして前回はニューヨークで行われました。ロボット支援下肝切除術や腹腔鏡下肝切除術というテーマのもと、新たな成果を報告し合うエネルギッシュな雰囲気に会場は包まれ、非常に刺激的な空間でした。

私は2つの発表を行い、そのうちの1つが世界最高評価にあたる「Best of the best selected video presentation（ベスト・オブ・ザ・ベスト）」に選ばれました。私の研究発表のテーマは「レネック被膜の理解が肝切除の安全性向上につながる（Understanding the Laennec's Capsule Can Improve the Safety of Liver Resection）」というもので、この研究により、肝臓から心臓に流れる血管である肝静脈が心膜と呼ばれる膜で覆われていることを世界で初めて証明しました。また、腹腔鏡の拡大視野を利用することで、肝臓がんを取り残すことなく切除できることをビデオでデモンストレーション（証明）しました。

私の発表が高い評価を得ることができたのは、一人の患者さんだけでなく、世界中で同じように困っている患者さんに適応できる可能性がある（普遍的に標準化できる可能性がある）ことが評価された点にあると考えています。実際にこの発表に対する反響は非常に大きく、イタリアの先生からも「一緒に研究を進めましょう」と強い関心を示していただきました。肝臓の外科解剖はいまだ完成しておらず、解決されていない多くの課題がありますが、ひとつずつ克服し、医療の進歩に向けた解明を進めていきたいと考えています。

加えて、2つの発表のほかに口演発表の座長も担当させていただき、英語での進行や質疑応答など貴重な経験を多く積むことができたことは、私にとって大変有意義な経験となりました。

最後になりましたが、ご協力いただいた患者さん、およびサポートしてくださった病理の先生、技師の皆さん、肝胆膵チーム、当院のスタッフの皆さんに、この紙面を借りて感謝申し上げます。

今後はこれまで以上に熱意をもって研究を続けるとともに、引き続き世界に向けた情報発信をしていきたいと考えています。そして何よりも、患者さんの命を守るために高い医療水準を維持し、患者さんに寄り添い、習得した知識を還元することに全力を注いでいく所存でございます。

第4回
国際腹腔鏡肝臓学会へ参加しました！

リハビリテーション科 理学療法士 **平田 敦士**

今回、外科の門田先生からお誘いを受け、イタリアのローマで開催された第4回国際腹腔鏡肝臓学会（ILLS 2023）に参加しました。この学会は2年に一度開かれる肝臓外科領域では最も大きな学会で、世界中から多くの医療関係者が集まり、最先端の手術手技や研究を発表します。事前提出した抄録がランキング形式で評価され、上位に選出されるとメインホールで発表する機会を得ることができます。

門田先生の研究発表は「Best of the best selected video presentation」に選出され、2大会連続で世界一を受賞されました。メインホールで世界中から集まった数百人に及ぶ聴衆を前に発表されている姿を見て、身近にいる先生が世界的に評価されていることを改めて認識し、誇らしい思いでした。

私の演題は「Selected oral presentation」に選出されていたため、上級一般演題として発表を行う機会を頂きました。「腹腔鏡肝切除における術後呼吸・身体機能への影響」という題目で、「腹腔鏡手術は手術後の呼吸機能の回復を早める可能性がある」ということを英語で発表しました。私がこの研究を行ったきっかけは、開腹手術と腹腔鏡下手術の双方のリハビリを経験するなかで、術後回復過程に差異を感じたことでした。そこで、より子細な調査が必要であると考え、臨床計画書を作成し、2018年から外科の先生方と共同で研究を始めました。

これまで、肝切除術を対象にリハビリプログラムを導入したことによる呼吸機能の回復について調べた報告はなく、世界でも初めての発表となりました。入念な事前準備の甲斐あって質疑応答も無事に乗り越えることができ、リップサービスかもしれませんが、座長の先生からは「優秀演題にふさわしい内容である」とお褒めの言葉を頂きました。会場で発表を聞いてくださったほかの先生からは、「外科とリハビリテーション科の相互協力による研究をぜひやってみたい」というコメントもありました。

われわれのような地方の病院がこれほどまでに高い評価を受けたことで、福山市民病院の医療水準の高さを世界に証明できたと考えています。これを励みに、現在は世界中のより多くの方々に今回の発表内容を知っていただくために、論文化に向けて鋭意取り組んでいるところです。

今回の学会発表を成功裏に終えることができたのは、患者さんをはじめ、外科の先生方やリハビリテーション科のスタッフのご指導、ご協力の賜物であると感じています。特に、門田先生には発表に向けたマインドセットからスライドの作成方法に至るまで、多くの事をご教授いただきました。数々の研究発表を経験されている百戦錬磨の先生から直接指導を受ける機会はめったにあるものではなく、自分自身の成長に大いにつながったと感じています。

今後は、今回の研究発表を通じて得た経験や学んだ知識をほかのスタッフと共有し、リハビリテーション科全体のレベルの底上げにつなげたいと考えています。地域に根差した病院として、患者さんのために高い医療水準と最大限のケアを提供できるよう尽力していきたいと考えておりますので、今後とも当院を何卒よろしくお願いいたします。

ふれあい看護体験2023&インターンシップを開催しました！

看護部 副看護部長 井上 和美

「ふれあい看護体験」とは、広島県看護協会主催で『市民のために保険医療福祉施設が、見学や簡単な看護体験、関係者との交流などを行うイベント』です。

夏休みに入った8月3日(木)福山市内の高校2年生～3年生の12人が参加し、看護実践体験を行いました！始めは緊張した様子でしたが、ベテランナースとのやり取りに少しずつ笑顔が見られていました。短い時間でしたが、今回の体験を通じてより看護に興味を持ち、数年後共に看護師として働いてくれることを願っています。私たち主催者側にとっても、高校生とのふれあいで有意義な時間を過ごすことができました。

また、8月16日(水)、23日(水)にはインターンシップを開催し、2日間で看護学生12人の参加がありました。今回のインターンシップでは、希望部署の見学や先輩との交流を行いました。参加した学生からは「先輩たちの話が聞けて良かった。もっと聞きたかった。」や「実際に先輩看護師の働く姿を見ることができてよかった。」という声が聞かれました。短い時間ではありましたが、当院を少しでも身近に感じる機会となり、今後進路を考えるうえでの参考になれば幸いです。

お忙しい中、対応してくださった部署の皆さん、ありがとうございました。

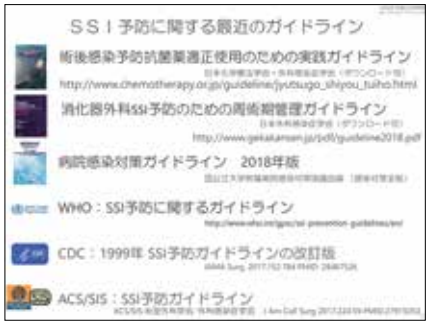
看護部
HPはこちら▶

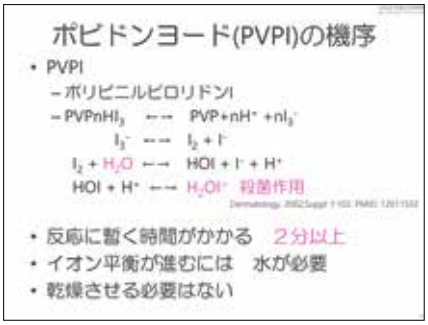
2023年度 第2回オープンカンファレンス

外科に関わる感染対策～最近の話題～

講師：京都医療センター 外科診療科長 感染制御副部長
畑 啓昭 先生　日時：2023年6月2日（金）18：00～

手術部位に関連した感染症が生じると、入院期間が延びて患者さんの負担が増えるだけでなく、医療費も70～300万円増加し、医療スタッフの負担も増えることから、世界的にSSIを減らす対策が重要視されています。本講演では、各種ガイドラインを紹介するとともに、手術以外でも重要な消毒薬の使用方法などについて紹介を行いました。少しでも日常臨床を振り返るきっかけになれば幸いです。



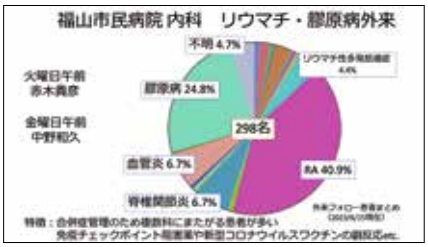


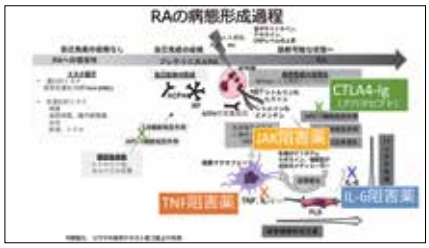
2023年度 第3回オープンカンファレンス

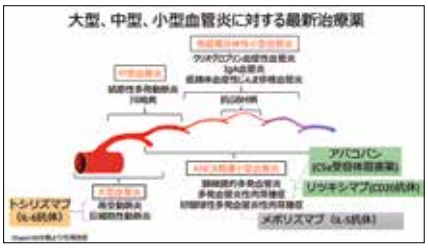
知っておきたい！リウマチ・膠原病診療のトレンド

講師：川崎医科大学 リウマチ・膠原病学　中野 和久 先生
日時：2023年6月22日（木）18：00～

全身性の自己免疫疾患である膠原病の治療においては、20年前の分子標的薬の登場が関節リウマチの患者さんの生活と予後を劇的に改善したことを契機に、それぞれの疾患の病態に即した分子標的薬による治療が進歩してきました。今回は、代表的な膠原病性疾患における治療のトレンドと、これまで膠原病治療の中心であった副腎皮質ステロイドの最近の考え方を概説させていただきました。膠原病診療は、多くの科の先生方との連携があってはじめて成り立ちます。引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。







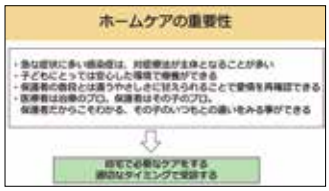
2023年度 第4回オープンカンファレンス

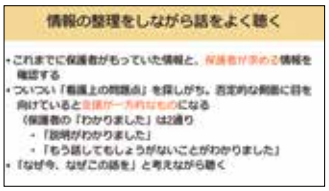
保護者のホームケア力を高める小児科看護師のかかわり

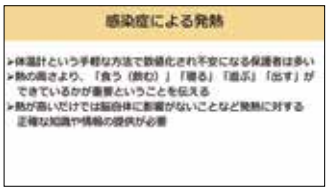
講師：福山市民病院 看護部 西館4階病棟 小児救急看護認定看護師　渡邉 奈緒 看護師
日時：2023年7月13日（木）18：00～

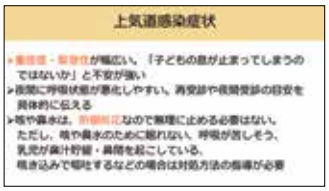
ホームケアとは、子どもが急な病気やケガをしたときに、家庭で行う看護法のことをいう。急な病気やケガで受診したあと、多くの子どもが自宅療養となる。特に子どもに多い感染症は、対症療法が主体となる。

治療が適切に子どもに届くように、私たち看護師は保護者に対する支援が必要である。そのために「支援の必要性の見極め」「支持的な態度」「効果的な指導方法の選択」を行い、保護者が帰宅後のケアをイメージできるように関わっていく必要がある。また緊急受診の目安とタイミングを伝え、医療者にとって受診が必要だと思われるのに、保護者にとっては必要性を感じてないというズレが起きないようにしなければならない。









2023年度 第5回 オープンカンファレンス

岡山大学病院における 臨床倫理コンサルテーション活動

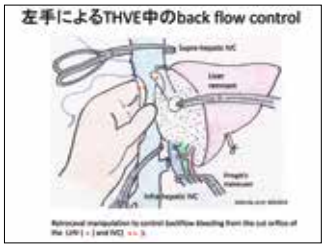
講　師：岡山大学大学院 精神神経病態学教室 准教授　寺田 整司 先生
日　時：2023年8月31日（木）18時00分～

2023年度 第2回がん診療連携合同カンファレンス

ロボット手術を含む低侵襲膵臓手術と肝胆膵がん根治切除

講　師：奈良県総合医療センター 副院長 集学的がん治療センター長 消化器・肝胆膵外科　高 済峯 先生
日　時：2023年9月7日（木）18：00～

膵頭十二指腸切除や肝臓切除については、まだ導入施設は限られている。高解像度拡大３Ｄ画像と自由で繊細なロボット鉗子による手術は、膵癌に対する切除、再建操作、肝切除における脈管処理に威力を発揮する。当院における実際の手術動画と成績について供覧した。加えて、当院における高度進行肝臓・胆道・膵臓癌に対する血管合併切除、特に肝動脈の顕微鏡再建、肝切除における肝静脈再建、下大静脈の人工血管グラフトによる再建等の動画を供覧し、長期生存も期待できることをお示しした。



ちょこっと
病棟紹介

病棟紹介HPはこちら▶

看護部 検査部門

看護部検査部門は放射線部門と内視鏡部門に分かれています。安全・安心な検査介助を行う部署になるよう、現在看護師23名とナースアシスタント3名で頑張っています。

放射線部門はCT・MRI・PET-CT検査等の注射、心臓カテーテル検査・治療、血管塞栓術、CVポート挿入等の介助を月に約3,000件担当しています。内視鏡部門は胃・大腸・気管支カメラ、ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）、EUS（超音波内視鏡）等の介助を月に約600件担当しています。

子育て世代のスタッフが大半で、家庭と仕事の両立というワークライフバランスを実践しながら自己スキルを高める努力を続け、学会認定の技士資格を持った看護師もいます。検査部門のナースアシスタントは患者さんの側に行く機会はありませんが、カメラ洗浄や物品補充等看護師が検査介助に集中出来るように看護師の補助をしています。

当院は高度急性期病院であり、夜間休日でも治療を急ぐ患者さんも多く搬送されるため、検査部門では24時間2人の宅直体制で緊急検査にも対応しています。これからも地域に無くてはならない病院として、より安心して検査を受けて頂けるよう部門一同精進して参ります。

本館5階病棟

本館5階病棟は病床数44床で、耳鼻咽喉・頭頸部外科20床/乳腺甲状腺外科14床/形成外科5床/歯科口腔外科5床の病棟です。病棟スタッフは看護師26名、ナースアシスタント3名、夜間ナースアシスタント1名、クラーク1名です。各科の手術・化学療法など、年齢層も幼児から高齢者まで幅広く対応しています。

耳鼻咽喉・頭頸部外科では気管切開を受ける方もおられ、気管孔の管理、吸痰吸入指導など退院に向けて患者さんや家族へ指導を行っています。また、耳鼻咽喉・頭頸部外科や口腔外科は食べることに直結する部分であり、毎週木曜日のNSTカンファレンスでは食事摂取状況、検査データ、治療の状況、患者さんの嗜好や思いなどを多職種間で共有し、食事形態や点滴の提案などをしています。形成外科では創部の状態によっては長期入院になることもあります。創傷管理と共に患者さんが苦痛少なく治療が受けられ、入院生活が安楽に過ごせるよう努めています。乳腺甲状腺外科では乳がん看護認定看護師と連携し、退院支援カンファレンス等で情報共有を行っています。各治療段階に応じた看護を行い、安心して退院していただけるよう支援しています。

皆さんに安心安全な看護を届けることができるように、働きやすく成長し合える病棟を目指して今後も取組んでまいります。

新人紹介

中村祥子

先輩方から新しいこと、分からないことを沢山指導してもらい、同期と支えあいながら日々頑張っています。

西川依里佳

報告・連絡・相談のしやすい環境で、日々看護について学ばせていただいています。これから少しずつ成長していきたいです。

若林亜未

日々多くの事を学ばせていただいてます。
先輩たちのような看護師になれるようこれからも頑張っていきます。

本館6階病棟

本館6階病棟は、外科・呼吸器外科・内科・眼科の混合病棟です。46床の病床があります。病棟スタッフは、看護師32名（退院支援看護師1名含む）、ナースアシスタント5名（ナイトナースアシスタント含む）、クラーク1名です。

化学療法や放射線療法、手術など急性期から終末期まであらゆる患者さんに対応しています。

混合病棟ゆえに、予定入院に加え、緊急入院も昼夜を問わず受け入れています。朝と夜ではお隣の患者さんが変わっているという事が日常茶飯事の状況で、1日が慌ただしく過ぎています。

そのため、スタッフは右に左にバタバタと動き回っているのですが、フットワークの軽いベテランのスタッフが多いので、後輩をフォローしながらチーム一丸となって安全な看護の提供に努めています。

本館は建物が古く、個室以外はトイレが遠いというのがマイナスポイントですが、眺めがいいのがプラスポイントです。デイコーナーからは、現在、建設中の立体駐車場の進捗状況を眺めることができます。南側は福山市街地を眺めることができ、夏には芦田川の花火が見える場所もあります。

患者さんが安心して療養生活を送れるよう、スタッフ一同明るく笑顔で努めていきます。

新人紹介

浅野奈摘

1年を通じて成長していけるよう日々頑張ります。

佐藤真菜

4月から本館6階病棟に配属されました。先輩方からたくさんの指導をいただき、やりがいを感じています。立派な看護師になることができるように努力します。

飛坂歩花

4月から半年たって出来るようになったことが増えました。これからも先輩のフォローを受けながら成長できるように頑張ります。

東館6階病棟

東館6階病棟は病床数41床（うち2類感染症病床は6床）の病棟です。病棟スタッフは看護師26名、ナースアシスタント3名、クラーク1名です。診療科は内科（消化器・呼吸器など）、循環器内科の患者さんが入院されています。化学療法や内視鏡検査、血管カテーテル検査などの治療を受けられる患者さんが安心して安全に入院生活を過ごしてもらえるように援助しています。薬剤科、リハビリテーション科、栄養管理科、地域医療連携課など、他職種とも連携をとっており、入院中や退院後も治療を続けていただくためのサポートを行っています。

新型コロナウイルス感染症が5類となり、3年ぶりに新人看護師を迎えました。私たちは、温もりのある看護の提供をモットーに、看護師個々の特性を活かし、お互いを認め合い成長しあえる環境作りを目標にしています。日々の看護の中で、何気ないことを看護師同士・患者さん・ご家族との対話を通して共有し、個々にあった看護を提供できる風土作りをこれからも行っていきます。

新人紹介

阿部朱莉（写真：左）

先輩方はとても優しく、分かりやすく丁寧に1から教えてくださいます。とても働きやすい環境です。

田村怜奈（写真：右）

少しずつ業務に慣れ、先輩方にサポートしていただきながら日々頑張っています。

西館4階病棟

西館4階病棟には、小児科・小児外科・外科系小児（耳鼻咽喉・頭頸部外科、整形外科、歯科口腔外科など）の患者さんが入院されています。病床数は26床で、病棟スタッフは、看護師25名、ナースアシスタント5名、クラーク1名です。

2021年から小児救急医療拠点病院の指定を受け、多くの患者さんを24時間365日受け入れています。

「安全で安心な質の高い小児医療、小児看護を提供する」「お互いを尊重し思いやりのある心と笑顔で連携のよいチーム医療を実践する」を病棟の目標として、医師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種で連携してチーム医療を行っています。また、患者さんやご家族に寄り添ったあたたかい看護が提供できるよう、日々知識・技術を磨き、スタッフ一同頑張っています。

新人紹介

萩原美愛

日々先輩方の姿を見て、多くのことを学ばせていただいています。少しでも患者さんとご家族の力になれるよう、1つ1つの経験を大切に努力していきます。

村上真由

4月に希望した小児科配属になりました。尊敬できる先輩方に優しくわかりやすくご指導いただいています。知識を身につけて、安心して看護を任せられるような看護師になりたいです。

＼ホスピタルアート／

西館6階病棟

西館6階病棟は外科・呼吸器外科の術前術後の患者さんが入院されており、病床数は40床です。病棟スタッフは、看護師27名（退院支援看護師1名含む）、ナースアシスタント4名、夜間ナースアシスタント1名、クラーク1名です。専門性の高い周術期看護を安心安全に受けていただけるよう、また、退院後の生活に繋がるようチームで支援を行っています。特に、人工肛門造設術に際しては、術後のストマ手技獲得に関する患者・家族指導を行い、QOLの維持向上に努めています。

病棟には、特定行為修了看護師1名が在籍しています。特定行為は、少子高齢化により多様化する国民のニーズに応えるため2015年より制度化されたもので、特定行為研修を修了した看護師は、「診療の補助」を実践的な理解力・思考力及び判断力を用いて行うことができます。対象となる患者の状態に合わせたタイムリーな対応と専門性の発揮により、質の高い医療・看護を効率的に提供することが出来ます。特定行為区分の実践は、医師との協働、タスクシフト/シェアを視野に入れた活動につなげています。

また、摂食嚥下障害認定看護師1名が在籍しており、特定行為修了看護師と共に、患者・家族・スタッフからの相談対応、指導育成に関わり、病棟全体の知識・技術の向上に貢献しています。

病棟目標は「一人一人が自己の役割を認識し、対話とコミュニケーションを通して、お互いが成長し合える職場環境をつくります。」としており、病棟における人材育成は、チームで育てる環境づくりを2人の主査が中心となり、また、リーフナースをサポートナースが支え、チームで良い循環となるよう取り組んでいます。看護師の平均年齢は31.0歳で経験年数5年目以下が5割を占めており、若い看護師が多く在籍しておりますが、ここ数年は新人の離職はゼロであり、新人が育ちやすい病棟です。

今後も、一人一人の患者さんの早期回復を少しでも後押しできるよう、病棟スタッフ一同、力を合わせて頑張ります。

新人コメント

入職して半年が経ち夜勤が始まっています。

勤務する中で上手くいかないことはたくさんありますが、先輩たちに支えていただき日々少しずつ前進しています。「ひとり立ち」という目標に向かってこれからも頑張ります。

リーフナースコメント

今年初めてのリーフナースを経験しています。

先輩方にご指導いただき、病棟全体で育てていこうという体制が整っているので安心して取り組むことが出来ています。ローズナースは毎日笑顔で頑張っており、日々成長していると感じます。

これからも一緒に成長していけるよう頑張ります。

第52回 歯科口腔外科

歯っと思ったこと

「自分の口臭に自信はありますか?」

歯科口腔外科
初期臨床研修医 佐藤 晃平

皆さんは普段の歯磨きでお口の中がどれくらい綺麗になっていると思いますか?実はお口の中には歯磨きで磨けない所に口腔細菌の約75%が潜んでいるため、歯磨きで綺麗にできるのはほんのわずかです。そこで普段の歯ブラシの補助として洗口液の使用をお勧めします。

一般的に歯ブラシやフロスなどの清掃器具を用いた口腔清掃や歯科医院で行われる歯石除去などの専門的な口腔ケアは、器具を用いた「機械的清掃」と呼ばれるものです。機械的清掃に加えて補助的に使用されるのが、今回お勧めする洗口液を用いた「化学的清掃」と呼ばれるものです。洗口剤には歯磨き粉と同様に沢山の成分が含まれ、その種類も豊富です。次項ではこれさえ押さえておけば間違いなしという成分を紹介していきます。

洗口液に含まれる成分は大きく二種類のグループに分けられ、一つは歯面やバイオフィルムとよばれる菌の集合体の表面に付着して効果を発揮する成分、もう一つはバイオフィルムの内部に浸透して効果を発揮する成分があります。

歯面やバイオフィルム表面に付着して効果を発揮する成分の代表としてクロルヘキシジンが挙げられます。医療用殺菌剤として用いられ、歯面の他にも粘膜に吸着し、プラーク付着の抑制と歯肉炎の抑制効果があります。しかし、クロルヘキシジンを含む洗口液は高頻度で歯の着色が起こることがデメリットと言えます。その他の成分に塩化セチルピリジウムや塩化ベンゼトニウムがあり、虫歯の原因菌に対する強い殺菌効果に加え、カンジダ菌などの真菌(カビ)に対しても抑制効果を示します。

また洗口液や歯磨剤は基本的に短時間使用するものですが、少量は嚥下されたり口腔粘膜から吸収されてしまい、全身に影響を与える可能性は非常に少ないですが、ゼロではありません。しかし前述したクロルヘキシジンと比較して、塩化セチルピリジニウムはアナフィラキシー症状などの重篤な全身症状の報告もなく、また歯への着色も起きないといった特徴を持っています。

続いてバイオフィルムの内部に浸透する成分にエッセンシャルオイルがあります。エッセンシャルオイルは油脂成分のチモール、メントール、シネオールなどを含んでおり、殺菌作用の他に抗炎症作用を示すと言われています。他にポビドンヨードとよばれる成分もバイオフィルム内部に浸透し、口腔細菌全般に対し強い殺菌作用を示します。ただしポビドンヨードは金属に対して強い腐食作用を持つため、インプラントや金属の被せが入っている方は使用を控えてください。またヨードアレルギーの方も要注意です。

洗口液には特有のピリピリ感があり、苦手とする方もいると思いますが、これはアルコール成分によるものです。最近ではノンアルコール製品も多く普及しているため、洗口液のピリピリした刺激が苦手な方は低刺激性のものを試してみてください。

新型コロナウイルス感染症によるマスク生活から少しずつ脱却つつある今、洗口剤を普段の歯ブラシの補助として使用することで、お口の息がそよ風と間違えられる程爽快なものになるでしょう。是非お試しください。

〈参考文献〉
五味 一博「歯科衛生士が知っておきたい洗口剤の応用」『日本歯周病学会誌』58(2):86-90、2016
「一般臨床家、口腔外科医のための口腔外科ハンドマニュアル22」クインテッセンス出版 編

◀歯科口腔外科 HP

気になる 認知症ケアチームの話

リハビリテーション科 作業療法士 村上 昌吾

第23回 認知症のリハビリテーションについて

認知機能障害を背景に、認知症の人は日々の生活で度々失敗することから、不安や混乱を抱えて生活しています。このことを理解し、受容的に接すると症状が安定し、進行が緩徐になると言われています。認知症になっても人格があり、感情があり、感情に訴えると心が通じ、生活力が向上します。認知機能そのものを向上させようとするリハビリはなかなか効果を得ることが難しいですが、残存している認知機能を活かして笑顔と生活機能の向上を目指すリハビリは比較的有効であり、軽度の認知症であれば認知機能までもが改善する例もあると言われています。

脳活性化リハビリテーションの原則

脳活性化リハビリの原則は、

①快刺激が笑顔を生み意欲を高める
②褒めることがやる気を生む
③会話が安心を生む
④役割を演じることが生きがいを生む

ということです。

認知機能そのものを高めようとするのでなく、「認知機能があっても前向きに楽しく生活できること」を目標とすることが必要です。

脳活性化リハビリテーションの実際

脳活性化リハビリでは回想法やゲーム、芸術など、さまざまな手法を用います。

回想法は、古い生活道具を使って回想を引き出すだけではなく、道具を使いながら自分の輝いていた時代をリアルに思い出し、自信を取り戻す効果と、道具の使い方を人に教えるという役割を演じることによる効果で認知症高齢者が元気になると言われています。回想法はちょっとした気分転換や脳トレのような感覚で自宅でできることもメリットです。写真や現物の道具が手元にない場合でも、インターネットで検索した写真や絵などをスマートフォンやタブレットで画面を見せてあげるなど手ごろにできます。家族との楽しい団らんとしてゲーム感覚で取り組めば、無理なく定期的に続けることができます。

大切な点は、どんな手法を用いるではなく、快刺激、褒める、楽しいコミュニケーション、役割によって笑顔とやる気を引き出すことです。自宅でも簡単にできるので、認知症ケア、コミュニケーションなどの参考にしてください。

《参考文献》認知症の
脳活性化リハビリテーション
老年期認知症研究会誌
2011　山口晴保

認知症
ケアチーム
HP ▶

周産期医療について その3

産婦人科 科長
早田　桂

2001年 金沢医科大学卒、岡山大学医学部附属病院、姫路赤十字病院、国立病院機構福山医療センター、岡山大学医学部・歯学部付属病院、国立病院機構岩国医療センター、広島市立広島市民病院、鳥取市立病院、岡山大学病院産婦人科助教、同病院同科講師、岡山大学学術研究院医歯薬学域 周産期・小児救急医療学講座 准教授を経て2023年より現職。
日本産科婦人科学会専門医・指導医、日本周産期新生児医学会周産期（母体・胎児）専門医・指導医、臨床遺伝専門医、他

今回は、近年の周産期医療が抱える問題点、広島県の現状について解説します。

本邦での2022年の出生数は77万747人で、全国的に出生数が減少して少子化が進んでいることは前回解説しました。広島県も例外ではなく、2005年（平成17年）に広島県内での出生数24,740人（うち低出生体重児2,315人・9.4%）が2022年（令和4年）には17,903人（うち低出生体重児1,753人・9.7%）へ減少し、福山・府中圏域においても2005年の出生数4,636人（うち低出生体重児405人・8.7％）が2022年には3,373人（うち低出生体重児310人・9.1％）へと、2005年に比し7割程度に減少しています。

次に広島県内の分娩取扱施設数は、2006年（平成18年）の76施設から、2022年（令和4年）4月1日時点では44施設へ減少しています。診療所は42施設から22施設、病院も25施設から12施設へ半減、一方周産期母子医療センターは9施設から10施設へ、1施設増えています。診療所では医師の高齢化による閉院、病院では医師等の確保が困難なことが分娩休止の主な理由となります。さらに福山市内ではこの統計後新たに診療所2施設が分娩休止となり、現在あわせて6施設で福山・府中圏域の分娩を維持していますが、近隣の府中市、神石高原町、岡山県井原市は既に分娩施設がなく、さらに笠岡市の診療所も年内で閉院が決定しているため、それぞれの分娩取扱施設では今後も分娩希望者数の増加が起こり、マンパワーとの兼ね合いが喫緊の課題となっています。

広島県内の産婦人科医師数は2004年（平成16年）の246人（病院137人・診療所109人）が、2020年（令和2年）では245人（病院142人・診療所103人）であり増減数に変化はありませんが、この人数には婦人科悪性腫瘍や不妊治療に特化した産婦人科医や分娩を取り扱わない診療所の産婦人科医を含んでおり、産婦人科医の中で分娩を取り扱う医師は限られているため、安全な分娩や周産期医療の質を確保していく対応が求められます。

加えて、産婦人科領域での大きな課題の1つに、2024年度から本格的に始動する医師の働き方改革があり、医師の時間外・休日労働時間の上限規制、宿日直の回数制限などにより、周産期医療体制に多大な影響が生じる可能性があります。宿日直明けには勤務を終了して休みを取る必要性があり、本来安全な分娩のためには、24時間365日体制で院内に医師が滞在していることが望ましいですが、働き方改革の諸条件下で医師滞在の体制を維持するには、2名の宿日直を置く総合周産期母子医療センターでは16名、1名の宿日直を置く地域周産期母子医療センターでは少なくとも8名の産婦人科医を確保する必要があると指摘されています。福山市内の分娩取扱病院3施設はいずれも産婦人科常勤医4-5名で構成され、大学病院からの医師派遣によって維持されています。産婦人科医師数に大きな伸びはなく、限られた人材で働き方改革に対応しながら、医療の質の向上、安全な医療を継続的に行うためには、この先分娩取扱病院や人的資源の集約化・重点化が必要になることが自ずと見えて来ます。けれども3施設を2施設にして8名以上を確保、あるいは1施設にして16名を確保し、集約化・重点化するのが望ましいかは、圏域内での医療資源の調整があるため直ちに動きがある話しではありませんが、周産期医療において福山・府中圏域の中核となる医療機関を何処にするかについては、第8次保健医療計画において現在協議・検討が進められています。

次回はハイリスク妊産婦について解説します。

お産について HP ▶

小児科ミニコラム

mini Column

福山市民病院
小児科 科長　三谷（みたに）　納（おさむ）

vol.08

「てんかん」「てんかん発作」の診断方法 中編－①
問診の重要性 ～探偵の如く～

前回は「てんかん」、「てんかん発作」の診断の流れの概要と間違えられやすい（鑑別が重要な）疾患についてお話ししました。

今回から具体的にどのような診察や検査を行っていくかお話ししていきます。

まずは前回のコラムでもお話しした通り、**診断において最も基本となる「問診」について**です。

今回と次回のコラムにわたって、**問診で聞いておきたい、知っておきたいポイントについて説明**します。（本当は企業秘密で教えたくないけど、教えちゃいます）

1　そもそもなぜ「問診」が重要なのか？

よく、脳波検査をすれば診断がつくのじゃないか？と、非専門医の先生方や若い先生方に聞かれます。しかし、また詳しくは次々号のコラムでお話しますが、脳波検査はリアルタイムで発作様症状が起きている時に脳波が同時記録できていれば、診断に至ることもありますが、頻回に発作がない限りは脳波検査中に発作が起こる可能性も低く、あくまで補助的な役割なことが多いと考えます。

前回もお話ししましたが、**適切な問診がなされれば、検査がなくても 70% 程度は「てんかん（てんかん発作）」なのかそうではないのか判断可能**とされていてます。

2 問診の内容

①発作に関すること以外:背景の確認

私の外来でもそうですが、発作そのものの話ではなく、**患者さんの背景についてまず確認**します。(発作そのものの聞くポイントについては次号でお話しします。)

A.家族歴

多くの「てんかん」は遺伝的な要素は関係ないとされますが、**一部の患者さんでは遺伝的な要素が原因となることがあります**。両親や同胞、そして親戚に「てんかん」や「熱性けいれん(最近では、熱性発作といいます)」がある(あった)かどうか、また親類に脳神経系や代謝、発達などにおいて基礎疾患をもっている方がいるかどうかが、重要な手掛かりとなることがあります。

B.既往歴・周産期歴

今までかかったことがある病気や、すでに診断されていたり治療中の疾患があれば、手掛かりになりうることがあります。

例えば、**妊娠中の母体の異常や新生児仮死、NICUなどで集中治療を行ったなど、周産期に異常があった場合**や、**頭部外傷の既往、(細菌性)髄膜炎や脳炎・脳症を起こしたことがある場合などは、その既往が背景となり、電気的過剰興奮(火事の源)となって「てんかん発作」を繰り返し起こしている可能性を示唆**します。

またいずれお話するかもしれませんが、**基本的には「熱性発作」≠「てんかん」が大原則ではありますが、「複雑型熱性発作」といわれるタイプや、発作時間の長いけいれん重積状態を経験した方、6か月未満での有熱時の発作などの既往がある方の一部では、重要な診断の手がかりとなることがあります**。(熱性発作についていずれどこかで機会があればお話しします。)

また現在何かの疾患で加療中で、薬を定期内服されている場合には、その薬の具体的な名前などもお聞きします。薬によっては、「けいれん」などを誘発しやすくなるとされるお薬も一部あります。

ですので**初診時にはお薬手帳をご持参ください**。

C.発達歴

発達歴もとても重要な情報となります。なので**初診時には必ず母子手帳をご持参いただきます。**

あやし笑い、首のすわり、寝返り、一人座り、独歩、二語文の開始時期がいつなのかなどを確認していきます。「てんかん」をもつ背景に先天的な基礎疾患がないかどうかなどを知ることができることもあります。

また、**「今まで出来ていたことができなくなったか?(退行があるかどうか)」も確認**します。

例えば、前々回に少しお話しした**「点頭てんかん」を代表とする「てんかん性脳症」と言われるものは、「首が座っていたのにぐにゃぐにゃになった」「あやし笑いしなくなった」「箸の持ち方が下手になった」など退行を伴うことが多い**です。

乳幼児健診で発達の指摘をされたり、自閉スペクトラム症(ASD)や注意欠如多動症(ADHD)などと診断されているかどうかも確認します。

ASDやADHDなどの神経発達症(発達障がい)では、「てんかん」を併存する事があり、ASDでは5~38%、ADHDでは12~17%に合併するとされています。

という具合に、発作以外に関する事もかなりの量の情報を聞いていきます。以前、私の外来についてくれていた研修医の先生が「先生(私)の問診は、探偵さんのようで、事情聴取のようでもありますね!」とお褒めの言葉(笑)をいただいたことがあります。的を得ているな、と思います。情報から背景や病状をイメージしていくのが、まさに問診です。

次回は、「けいれん」など含めた「てんかん発作」の際にどのような事を聞いていくのか、書いていきたいと思います。

追記

10月19日~10月21日まで、新宿で開催された第56回日本てんかん学会学術集会に参加してきました。

前泊した際に、東京都庁まで少し散歩してきました。都庁がパープルに照らされていて、学会を応援してくれているような気持になりました。(パープルは「てんかん」のシンボルカラーなのです)

勉強の合間には、たくさんの著明の先生方や、家族会・団体の方々にもご挨拶でき、とても刺激をいただき、帰福しました。

勉強してきたことを、福山の地で活かしていきたいと思います。

そして、学会の空き時間に念願かなって、訪れたかった場所に行けたのですが…。それは次回の追記でお話しできればと思います。

NEWS 1

2023年度消防競技大会に参加しました！

10月26日、福山地区消防組合主催の「2023年度消防競技大会」が箕沖球場で開催されました。

この大会は、「初期消火技術の向上と正しい避難行動の習得を通じ、自主防火体制の確立を推進するとともに、事業所等における火災予防意識の高揚を図ること」を目的としています。

全4種目で大会が開催され、当院からは「**一般消火の部（女性の部）**」「**総合訓練の部**」に各１チームが出場し、総合訓練の部では出場チーム23組の中から**準優勝**を果たしました。

「一般消火の部（女性の部）」競技概要

１チーム女性２人で編成
出場者　1番員：林　2番員：水戸
○１番員　避難支障物品除去・水バケツ注水操作・避難
○２番員　通報・消火操作・避難

「総合訓練の部」競技概要

1チーム3人（女性1人以上を含む3人）で編成
出場者　1番員：荻野　2番員：岡本　3番員：長嶋
○1番員　ベル鳴動・消火操作・避難
○2番員　通報・消火器搬送・避難支障物品除去・逃げ遅れ者避難誘導・避難
○3番員　逃げ遅れ・避難

操作と時間の持ち点から減点方式で審査

NEWS 2

当院を会場に「第3回ふくやま子どもメディカルラリー」が開催されました！

子どもメディカルラリーとは、福山市内外の小学校5・6年生から募集したキッズチャレンジャーがチームを組み、心肺蘇生や応急処置に関連したミッションに挑む競技会のことをいいます。今年度は病院総務課の全面協力のもと石井賢造先生が会場責任者となり、民間団体ボウサイズ主催で開催されました。チャレンジャー36名がエントリーしてくれ、当院からも数名のボランティアが参加しました。

チャレンジャーたちの素直な探求心や、チームで相談し協力する姿を見れたことは、私たちにとっても良い刺激となる1日でした。次年度は、皆さんもキッズチャレンジャー＆ボランティアスタッフとして参加してみてはいかがでしょうか。きっと素晴らしい1日になると思います。

（文責：西館4階病棟 看護師　渡邉奈緒）

室院長の激励でスタートをきりました

災害を想定したブースでは、スタッフが迫真の演技をしていました

胸骨圧迫の練習をしています

院内保育施設

ひまわりから

ミニ運動会ごっこ！

玉入れ

たくさんカゴに入れられるかな♪

0歳サーキット

お山だって登れるもん★

1, 2, 3歳サーキット

一本橋を通って・・・

ゴールまでよーいドン！！

2, 3歳はちょこっと難易度UP⬆

タッチでゴール！

先生と一緒におつかい

親子イベント

コロナ禍でできなかった親子イベントを行いました。
散歩で使うポシェットづくりをしました。
お父さんお母さんと一緒でみんな嬉しそう♪

QRコード™の読み取り方紹介

❶ 標準搭載の「カメラ」を起動し、コードが画面内に収まるように位置を合わせます。
❷ 画面に表示される通知をタップしすると関連するサイトに移動できます。

iPHONE

Android

WEBサイトが表示されます

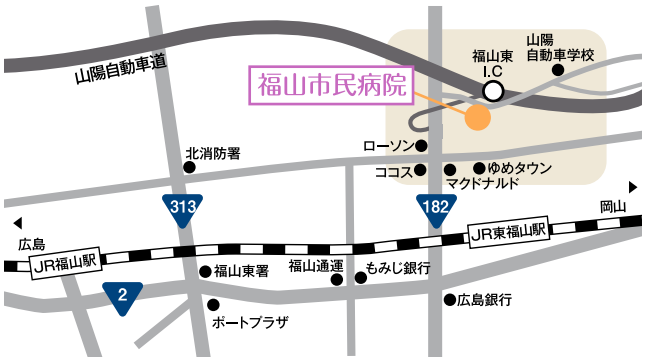
※ソフトウェアのバージョンや機種によって、表示や方法が異なる場合があります。

福山市民病院外来診療担当表

最新の外来診療担当表を掲載しています。
こちらからご覧ください。

管理者室より

当院病院事業管理者 高倉範尚先生からのメッセージをホームページでご覧いただけます。月に1回程度更新しています。ぜひご覧ください。



交通のアクセス

●山陽自動車道福山東インターより車で2分
「東城・府中」方面へ進んでください
国道182号線に出られたらすぐ右折レーンにお入りください
（「福山市街」方面からは右折が困難です）

●JR福山駅より
車で15分　バスで20分
福山駅前 2・8番乗場
↓
福山市民病院下車

※広報誌「ばら」に対するご意見をお寄せください。

福山市民病院　〒721-8511 広島県福山市蔵王町5丁目23-1
電話 (084)941-5151　FAX (084)941-5159
ホームページ ●https://www.fc-hosp.jp/
電子メール ●shimin-byouin@city.fukuyama.hiroshima.jp

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。